

D. マイコン・ワープロの利用研究

磯部きよ子 齊藤 真子 杉山 光男
高木 徹 高須 照夫 富田 昇
松井 一幸 宮田 学 柳田 嘉久

「ワードプロセッサ」利用による 事務の効率化についての報告

杉山 光男

1. ワードプロセッサ購入までの経緯

最近学校での印刷物に関する機器は目覚ましく進歩し、原紙の製版は1分足らずで出来るようになり、更に原紙の製版をし・ロボットが貼り付け・指定の枚数を印刷する機種（価格が百数十万円する）も出現するようになった。10年程前から素人でも扱えるタイプライター（パンライター）が普及し、本校でも数台を数える上に、更に電動の機種が1台あり、これは修正テープの使用が出来て便利になって来た。またコピーも印画紙のいらぬ乾式機器の導入により数枚の書類の作成が容易になり、1%毎の拡大・縮小が出来るコピー機の導入で、コピーした原稿を使って益々手軽に印刷が行えるようになった。

近ごろ学校で、ワードプロセッサが利用されるようになり、本校での導入の経緯を振り返ってみよう。

59年夏に、科学研究費補助金の一部で富士通のオアシスライトを1台購入した。これは1行（40字）しか表示出来ず、印刷は熱転写で、表面が滑らかな用紙に限られ、印刷リボンを使い捨てるため、使用する費用が嵩んだ。しかし当時としては、便利なものであり持ち運びも容易で、個人で使うには好都合だった。

愛知教育大学附属高等学校に、ワープロが入って利用されていると、59年の春に耳にし、垂涎的であった。その後本校でも、試しに使ってみる機会に恵まれ展示会へも度々足を運んだ。その結果どのような事に役立つかが凡そ判って来た。本校での購入は、財政の見通しが立たず、検討も始まっていなかった。59年6月に、私が私費でワープロ（NECのNWP-8N文豪）を購入した。

やがて本校でも先生と事務の両方からワープロ導入の気運が高まり、59年の秋にワープロ機種選定委員会が発足した。各業者に連絡をして数時間から2週間位借りて校内で使ってみた。百万円前後の国内の殆どの機種について操作方法、機能と特徴等を比較検討した。しかし各メーカーにより、それぞれの機種に特徴があり、都合のよい所ばかりを取り合わせた機種はなかった。機能が豊富である事は、逆に操作が繁雑であり、価格も高かった。当面は普及を主眼に置いて、機能は少なくとも操作の簡便な機種を考えた。

折しもワープロ機種選定に関して、ある大学と業者との不明朗な関係が新聞紙上を賑わせている最中で、神経を使っただのワープロ機種選定であった。ワープロ機種選定委員会では何回も検討の結果、操作が簡単で・B4（葉半紙）横が印刷出来る、NECの8Nに落ち着いた。この機種は縦横倍角文字が出来ず、縦の点線が引けず、Ⓜはなく、機能は十分ではなかった。しかし、一行毎の行間の指定は出来ないが、書式作成によって行間を調節出来る独特のよい機能を備えていた。委員以外の先生からは、更に画面の色に対する希望・ドット数のもっと多い機種が望ましい等いろいろ要望が出たが、この機種に決まった。

初めてのワープロ導入に際して、年度末にならないと捻出出来る費用の見当がつかず、使用するのに一人がある程度長時間占有するため、台数を多く購入しなかった。8Nの標準品から機能の一部（グラフの作成とレイアウト表示の一部）を割愛して、他のメーカーのある機種1台分の費用で本体を3台、ワイヤードットプリンターを2台購入した。プリンター付き1台を事務室に置き、他の2台を教室室に置いた。

2. ワープロ導入後の状況について

当面は、使用出来る人を増やす、普及活動に主眼を置いた。多くの先生がワープロに興味を持って取り組んで練習に励んだ。しかしガイドブックを見乍ら使っていく人が少なく、殆どの人が練習を余りせずいきなり必要な書類の作成に意気込み、度々操作や機能上の事で行き詰まる場面もあった。

ワープロを利用する人が急速に増え、空いていない時があった。いつも誰かが使っている有様で、その結果、半年で約半数の先生が一応使えるようになった。扱える人の増加は、当初に比べその後次第に少なくなり、一人ずつ増えたが、34人中の約20人が使える現状である。更に、ワープロ(NECの5V)を60年の6月頃二人、61年3月に一人私費で購入した。

ワープロを使っていて、黒板の白チョークの字を見ると、ピンク色に見えた。これは画面が緑色の為で、その補色の橙色や赤い紙を、傍らに置いて視野に入るようにして処置した。個人差もあり、余り気にならない人もいた。操作の誤りにより、折角入力した文章や校正した表が、壊れてしまう事も時にはあった。特にシステムフロッピーや辞書フロッピーの損傷が、たまに起こり、3台ある関係上、コピーして作るには困難ではなかった。また印刷には、本校で使っているリソグラフ・マスターの原紙の合わせ紙の滑らかな面を使っている。これはB4より大きく熱転写でも使用可能で、廃品利用として大いに役立っている。

60年の秋頃から、ワープロの利用頻度が多くなり混み合ってきた。追加購入の必要が出て来たが、NECでは8Nの製造は、中止されていて5Vに切り替わっていた。本校では、8Nの機種に馴れた人が多く、新製品の導入は、操作が異なるので困る。ガイドブックを見乍らワープロを使って行く人が少なく、同一の機種が望ましいのであるが、61年3月に止むを得ず従来の機種8Nに近い、NECの5Vを2台(プリンター付き)と1年前に購入した8Nのプリンター無しの機器にプリンターの追加をした。一つの機種が使えるともう一つの機種を使ってみようという人はなく、8Nが使える人は、5Vにはなかなか手を出さない現状である。当初8Nを購入した時期はフロッピーが256Pであったが、その後1024Pが開発され、1枚のフロッピーディスクに8NではA4版100頁、5Vでは同じ版で250頁、記録出来る事になっている。実際には8Nの4枚分近くが5Vの1枚に記録出来、フロッピーの保管についても費用についても、少しずつ便利になってきた。また5Vでは機能がいくらか増え、画面の色が白黒で見易く、眼の疲れは幾分少ないようだ。ドット数は24で変わっていない。

3. ワープロ利用の現状

最近事務の会計関係の書類、教務関係の書類、その他大部分の書類がワープロで作られるようになった。教官室でも校務分掌上の書類、テスト問題、身体検査関係の書類、入学試験の諸資料、行事予定表、クラブ関係の書類、保護者への諸案内等、特に学校運営に関する書類についてフロッピーに記録してあり、万一の事を考慮して8N用で23枚、5V用で5枚の両方で記録してある。例えば61年度の入学式実施案では昨年ものに少々手を加えれば済み、校務分掌表(一般の学校では学校管理案に当たるもの)でも異動等により変更になった部分のみ変えれば、出来上がるようになり、新入生のオリエンテーションの内容についても同様である。生徒の住所録では、学年やクラスが変わるが、住所や保護者名をつけたまま順序の並べ替えを、ワープロに行かせ2・3年生のものを作った。このようにして、本校では1年間余りワープロを使用してみて、学校事務の効率化への寄与が現れて来た。特に毎年きまった形式の書類については、フロッピーの記録に若干修正を加えれば済む。この点が大きな利点といえよう。学校事務の効率化は整理した原稿がどれだけフロッピーに入っているかによる。また5Vでは、英文の入力で行末で単語が切れないようにし、しかも行末が揃うように工夫されていて、英語のタイプライターにとって替わる可能性もある。1年を経て、次第にその便利さが増して来た。その結果外部への印刷の注文は、ワープロで作ったものを、拡大・縮小コピーとの併用で原寸の原稿を出して、それを写真版で印刷する事により、低コストに繋がるようになってきたが、一方印刷物の増大により費用の軽減にはなかなか至らない現状である。近い将来ワープロのフロッピーを出せば、原稿用紙を渡さなくても、印刷業者の方で直接に印刷が出来るようになるであろう。

医学的な身体への影響については、本校では全く判っていない。私自身視力が減退したようだが、これは歳のせいかも知れない。特に眼への影響は、今後の課題と思われる。プリンターの音も、周囲の者にとって気になるかも知れない。

オアシスライトを除いて61年3月には、学校で5台、個人で4台持つようになった。今のところワープロは、新機種に切り替わるのが早い。入力したものが他のメーカーの機種では使用出来ない。24ドットでは、ワープロで打った問題を印刷して、入学試験に使い難い。その他いろいろ改良が望まれるが、利用者からは、一様に便利な機械との評判は高い。更にもっと台数を増やしていきたいが、財政緊縮の折りから、まとまった支出は、容易ではない。今後期待したい。